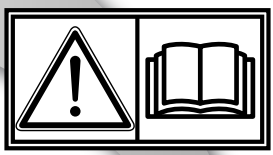
SUBARU

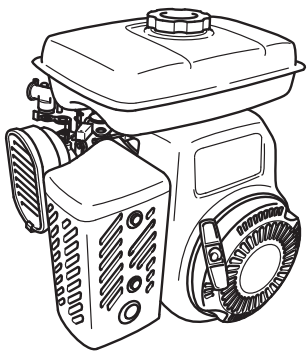
EY15-3D
EY20-3D



SUBARU
FUJI HEAVY INDUSTRIES LTD.,
TOKYO JAPAN

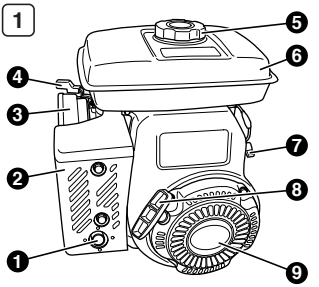
2ZZ9990071

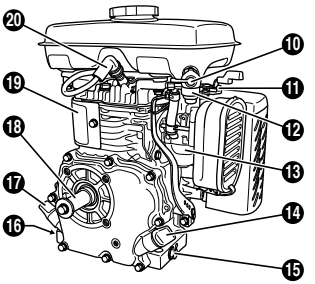
取 扱 説 明 書	JP
INSTRUCTIONS FOR USE	EN
MANUEL D'UTILISATION	FR
BEDIENUNGSANLEITUNG	DE
GEBRUIKSAANWIJZING	NL
MANUAL DE INSTRUCCIONES	ES
MANUALE D'USO E MANUTENZIONE	IT
MANUAL DE INSTRUÇÕES	PT
ΟΔΗΓΙΕΣ ΧΡΗΣΕΩΣ ΚΑΙ ΣΥΝΤΗΡΗΣΕΩΣ ΚΙΝΗΤΗΡΩΝ	GR
INSTRUKTIONSBOK	NO
BRUKSANVISNING	SE
KÄYTTÖ-JA HUOLTO-OHJEET	FI
BRUGSANVISNING	DK
使 用 说 明 书	CN
إرشادات الاستعمال	AR



Robin Engines

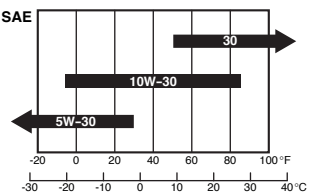
1



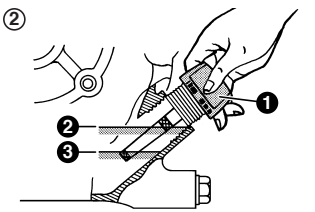


2

①

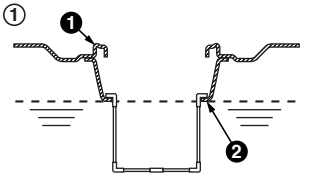


②



3

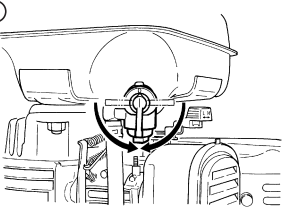
①



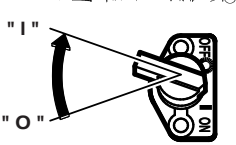
②

4

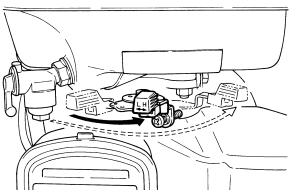
①



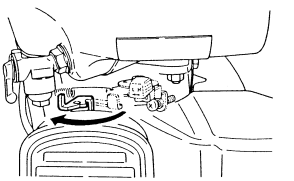
②



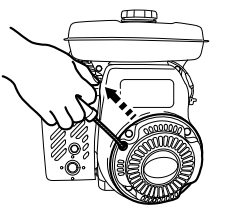
③



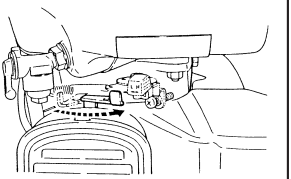
④



⑤

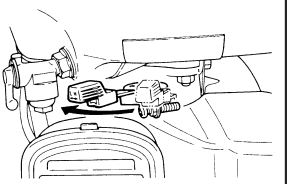


⑥

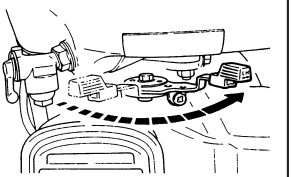


5

①

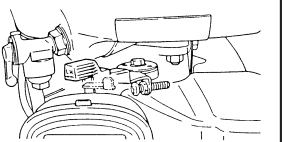


②

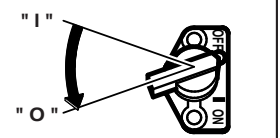


6

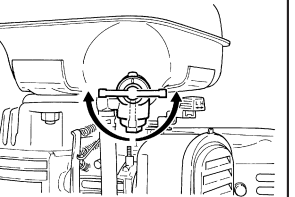
①



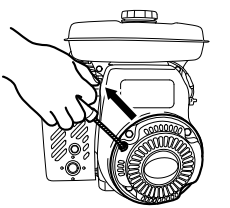
②



③

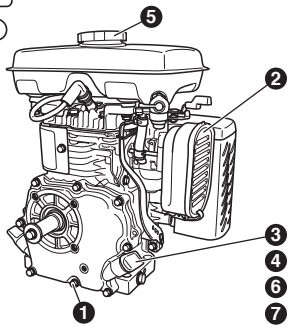


④

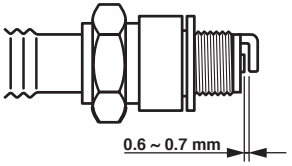


7

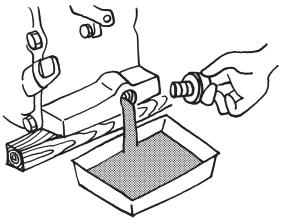
①



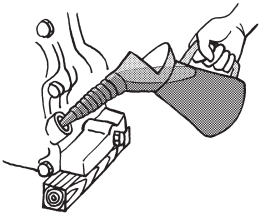
②



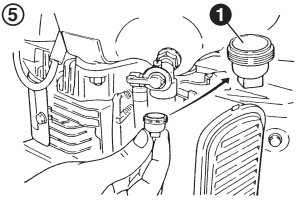
③



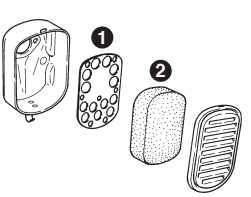
④



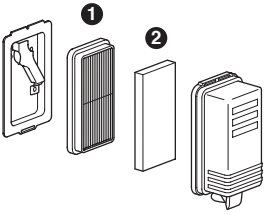
⑤



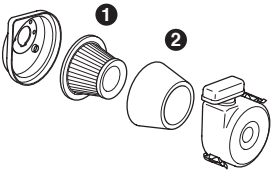
⑥



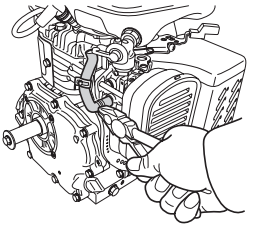
⑦



⑧

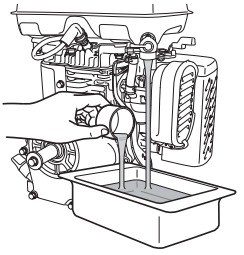


⑨



8

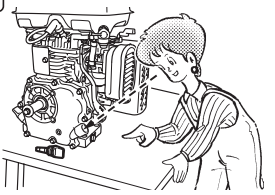
①



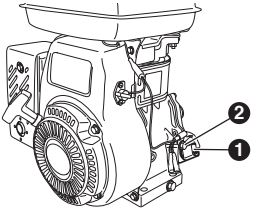
②

9

①



②



10

①

②

③

④

国内排出ガス自主規制について

JP

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用エンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り　併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体で、環境保全の重要性を考慮して小形汎用エンジンの排出ガス浄化のため自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。
http://www.lema.or.jp

ま え が き

このたびは当社製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。
この取扱説明書には、正しく安全にご使用いただくための注意事項が記載されています。
ご使用になる前に必ず本書をお読みになり使用方法を理解してください。
（誤った使用方法は、事故・怪我の原因となります）
作業機の取扱説明書も必ず読んで理解の上使用してください。
取扱説明書は、大切に保管し、何時でも見られるようにしておいてください。
末永く皆様のお役に立ち、ご愛用くださるようお願い申しあげます。

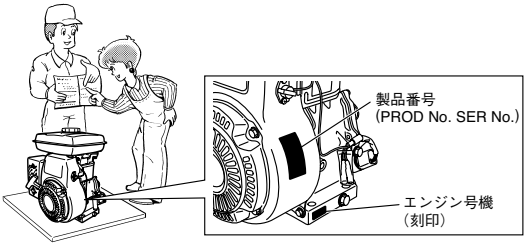
※エンジンの改良等により、本書の内容が異なる場合がありますのでご了承ください。

識別番号を記録しておいてください。

お手持ちのエンジンの識別番号を下記の空欄に記入しておきましょう。補用部品をご注文される場合に便利です。（ラベルの位置は仕様により異なる場合があります）

JP

PROD NO.	SER NO.



注　意

アメリカの EPA 排ガス規制に合致したエンジンには、排ガス認証ラベルがエンジンに貼って有り、カリフォルニア州を除くアメリカへの輸出も可能です。排ガス認証ラベルが貼られていないエンジンをアメリカに輸出すると、罰則の対象になります。

目　次

1. 安全にご使用いただくために 2頁
2. 各部の名称 4頁
3. 運転を始める前に 4頁
4. 運転のコツと停止のしかた 4頁
5. 点検について 5頁
6. 長期保存のしかた 6頁
7. オイルセンサー付エンジンをお持ちの方へ 7頁
8. トラブルシューティング 7頁
9. 仕　様 8頁

サービス網 8頁

注 文章中の図 ① から ⑩ については、表紙(裏表紙)の内側の図をご参照ください。

1. 安全にご使用いただくために

安全にご使用いただくために、シンボルマークや標語を次のような内容で使いわけてあります。

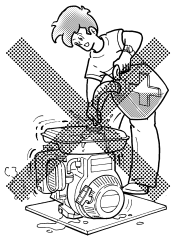
⚠ 危険 ：この表示はその警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性が高いと考えられる項目に使用します。

⚠ 警告 ：この表示はその警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性が考えられる項目に使用します。

⚠ 注意 ：この表示はその警告に従わなかった場合、けがや火傷を負う可能性が考えられる項目に使用します。

JP

また、それぞれの項目に危険を回避するための予防措置を記載していますので必ず守ってください。



⚠ 危険 ：燃料はエンジンを止めてから補給すること。

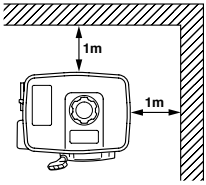
- エンジンを運転したまま燃料を補給すると、燃料がこぼれて、エンジンスパークやマフラなどから引火することがあります。
- 燃料の補給は、運転停止後２分間以上冷却した後行ってください。
- 燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってから始動してください。
- 燃料補給時のくわえタバコなど、火気厳禁。

⚠ 危険 ：排気ガス出口付近には、燃えやすいものは近づけないこと。

マフラの排気口付近は高温になります。火災の原因になりますのでガソリン、マッチ、紙、わらくず等、燃えやすいものを近づけないでください。

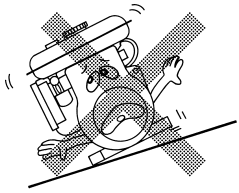
⚠ 危険 ：エンジンのまわりは火気厳禁、燃料に引火、火災の危険があります。

建物およびその他の設備から１m以上離して設置してください。



⚠ 危険 ：平坦な安定した場所に設置すること。

傾斜地では燃料タンクキャップや気化器から燃料がこぼれ、火災の原因になります。

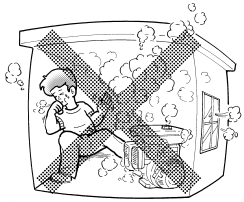


⚠ 危険 ：エンジンの運搬時は燃料を抜くこと。

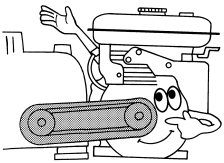
燃料がタンクに残っていると燃料が漏れ、火災の原因になります。

⚠ 危険 ：室内、トンネル内など換気の悪い所では使用しないこと。

エンジンの排気ガス中には一酸化炭素などの有害な成分が含まれており、ガス中毒を起こす危険があります。やむをえない場合は、排気ガスの室外放出等、十分換気をしてください。



⚠ 注意：出力軸、プーリ、ベルト等の回転部が露出していないこと。

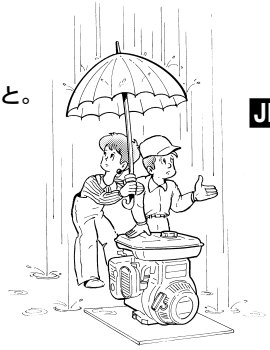


十分な防護(カバー)をして回転部への接触を防止する処置を取ってください。
負傷事故の原因になります。

⚠ 注意：熱くなっているマフラやエンジン各部を触らないこと。

火傷の恐れがありますので、これ等の箇所には十分な熱害防護策をしてください。幼児が触れないよう隔離措置をして、安全な場所で運転してください。

⚠ 注意：始動時や運転中に高圧コードや点火プラグキャップに触れないこと。



感電の恐れがあります。(雨中は使用しないでください)

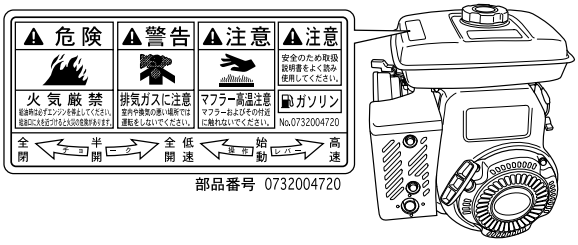
⚠ 注意：作業前の点検を行いましょう。
(くわしくは 4 頁以降を、お読みください)

- 燃料パイプ等の取付部がゆるんでいないか、又損傷していないか十分確かめて、必要があれば締め付けや交換をしてください。燃料漏れは引火する危険があります。
- 各部のボルト、ナットのゆるみはないか確かめてください。各部の機能に異常が生じ危険です。
- 冷却ファンやリコイルスタータの周囲から、ゴミ、草及びその他のくず等は、取り除いてください。
- オイルは適量に入っているか確かめてください。オイル不足は機能に異常が生じ危険です。
- 運転する時の服装にご注意ください。前掛け、腰タオル等特に長い紐類は巻込まれたり、引掛かる危険があります。

⚠ 警告表示

- 当社エンジンには下記に示す場所に、特に重要な危険事項に対し注意ラベルが貼付されています。使用に際しては、十分に理解の上守ってください。

- 注意ラベルが見えにくくなった場合や、はがれた場合には貼りかえてください。



部品番号 0732004720

2. 各 部 の 名 称

(図 -1 参照)

注 文章中の図 1 から 10 については、表紙(裏表紙)の内側の図をご参照ください。

❶ マフラ排気口
❷ マフラカバー
❸ エアクリーナ
❹ スピードコントロールレバー
❺ 燃料タンクキャップ(燃料給油口)
❻ 燃料タンク
❼ ストップスイッチ
❽ スタータノブ
❾ リコイルスタータ
❿ 燃料コック
⓫ チョークレバー
⓬ 燃料ストレーナ
⓭ キャブレター
⓮ オイルゲージ（オイル注入口）
⓯ オイルドレンプラグ
⓰ エンジン号機（打刻位置）
⓱ オイルゲージ（オイル注入口）
⓲ 出力軸
⓳ エンジン銘版
⓴ 点火プラグ

JP

3. 運転を始める前に

エンジンオイルが入っておりませんのでご使用になる前に必ず注入してください。

1. エンジンオイルを入れる。(図 -2 参照)

オイルはエンジンを水平に置き、注入口からオイルゲージをねじ込まないで計り、上の刻み線まで入れてください。**約 0.6 L 入ります。**

- オイルは外気温度に応じて、図 -2-① 表粘度のロビン純正オイル又は自動車用エンジンオイルを使用してください。
- エンジンオイルの質及び量の低下は焼付きのトラブルをまねきます。オイルの品質は SE 級以上の良質のものをご使用ください。
- 外気温度が−20℃以下及び40℃以上の場合は現地に適合した粘度・品質のものをご使用ください。

図 -2-② の説明

❶ オイルゲージ
❷ 最高油面 (0.6 L)
❸ 最低油面 (要補給)

2. 燃料タンクに燃料を入れる。(図 -3 参照)

⚠ 危険 火気厳禁

- 燃料は自動車用普通ガソリンを使用してください。タンク容量は
  EY15-3 型：約 2.8 L
  EY20-3 型：約 3.8 L
- 燃料補給は燃料コックを閉じておこないます。
- 燃料は給油口の口元 ❶ まで入れず、所定の給油限界位置以内で補給してください(❷ の位置)
  入れすぎると燃料が燃料タンクキャップからにじみ出ることがあり危険です。
- 燃料給油時には、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。
- 燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってから始動してください。(図 -3-②)

4. 運転のコツと停止のしかた

(図 -4 参照)

1. 始　動

(1) 燃料コックを開きます。(図 -4-①)

(2) ストップスイッチを運転 "**I**"(ON)側にまわします。(図 -4-②)

(3) スピードコントロールレバーを低速(L)から高速(H)の方向に約 1/3 開いた位置にします。(図 -4-③)

(4) チョークレバーを閉じます。(図 -4-④)
チョークの開度は

- 寒い時やエンジンが冷えている時は**全閉**にします。
- 暖かい時や運転停止直後再始動する場合は**全開**もしくは**半開**にしてください。

(5) 始動ノブをゆっくり引いてゆくと重くなる所(圧縮点)があります。更に少し引くと一度軽くなる所があり、そこから始動ノブを一旦元に戻し、勢いよく引張ります。ロープは一杯に引ききらないでください。引いた始動ノブは、その位置から手離さずに静かに元に戻してください。(図 -4-⑤)

(6) エンジンが始動したらチョークレバーを開きます。

- チョークレバーはエンジンの調子をみながら徐々に開き、最後には必ず**全開**にしてください。
- 寒い時またはエンジンの冷えている時、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止する事があります。ご注意ください。(図 -4-⑥)

2. 運　転

(1) エンジン始動後、負荷をかけずに１～２分位、低速(L)側で運転(暖気)します。(図 -5-①)

(2) スピードコントロールレバーを徐々に高速(H)側に操作し、所要回転数にセットします。(図-5-②)

- 作業を中断する時はその都度スピードコントロールレバーを低速(L)側に戻してください。燃料の節約のみならず、エンジンの寿命にも好影響を与えます。

3. 停　止

(1) スピードコントロールレバーを低速(L)にし、1～2分位運転します。(図 -6-①)
(2) ストップスイッチを停止“O”(OFF)側にまわしてください。(図 -6-②)
(3) 燃料コックを閉じます。(図 -6-③)
(4) リコイルスタータの始動ノブをゆっくり引き、重くなった所で始動ノブを戻してください。エンジン内部への外気(湿気)の浸込が防止できます。(図 -6-④)

※燃料コックで停止させる方法

長時間使用しない時は、燃料コックを閉にして気化器内の燃料を使い切り、エンジンが自然に停止するのを待ちます。この方法は気化器内に残った燃料が変質し気化器内のつまり等を防止する為です。

5. 点検について

(図 -7 参照)

1. 日 常 点 検(図 -7- ①)

ご使用になる前、必ず次の点検を行ってください。

❶ 各部ボルトゆるみ、破損
❷ エアクリーナエレメントの汚れ清掃
❸ エンジンオイルの量と汚れ
❹ 燃料、オイル等の漏れ
❺ 燃料残量
❻ 周囲の安全
❼ 異常振動・異常音

JP

2. 定 期 点 検

エンジンを常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って保守点検を必ず実行してください。
(普通の状況で使用の場合)

3. 点火プラグの清掃と調整 (図 -7- ②)

(1) プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナ又は、ワイヤブラシ等で汚れを落してください。

(2) 電極間隙の広い場合は側方電極を曲げて、0.6～0.7 mmに調整します。

推奨点火プラグ：NGK B-6HS 相当品

運転時間	8時間（毎日）	50時間（毎週）	200時間（毎月）	300時間	500時間	1000時間
各部の清掃及び締付点検	○（毎日）					
エンジンオイルの点検・補給	○（毎日規定最大まで補給する）					
エンジンオイルの交換	(初回20時間目)	○				
点火プラグの清掃		○				
エアクリーナの清掃		○				
燃料ストレーナの清掃			○			
点火プラグ隙間清掃と調整			○			
吸排気弁隙間点検・調整				◎		
シリンダヘッドのカーボン除去					◎	
気化器清掃					◎	
吸排気弁点検すり合わせ					◎	
オーバーホール						◎

◎印の点検項目は、販売店または整備工場にご用命ください。

4. エンジンオイルの交換（図 -⑦-③,④）

初回 20 時間運転後に交換
第 2 回以降 50 時間運転ごとに交換

(1) オイル交換はエンジンを停止し、暖まっている時ドレンプラグを外して抜きます。オイルゲージを外しておくと早く抜けます。

⚠ 注 意

熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意してください。

(2) オイルを注入する時は、ドレンプラグをしっかり締めてください。**約 0.6 L 入ります**。

(3) 使用オイルについては 4 頁を参照してください。
- エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり、品質の悪い物を使用しますとエンジンの寿命を縮めます。常に良質できれいなオイルを規定量保つように注意してください。

5. 燃料ストレーナの清掃（図 -⑦-⑤）

⚠ 危険 火気厳禁

(1) ストレーナカップ(図-⑦-⑤-❶)内に水やゴミがたまっていないか調べます。
(2) 水やゴミがたまっている時は、燃料コックを閉にし、ストレーナカップを左にまわして外します。
(3) ストレーナカップ内の水やゴミを捨て、コシアミに付着しているゴミも捨てて、洗油(白灯油)で洗い、本体に完全に締めつけます。

6. エアクリーナの清掃（図 -⑦-⑥,⑦,⑧）

空気中の塵埃を取り除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、運転に不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。いつもきれいなエアクリーナエレメントにしておくよう心掛けてください。

⚠ 危険 火気厳禁

（1）ウレタンフォームエレメント（図 -⑦-⑥）

- エレメントを抜きとり、洗油（白灯油）で洗浄後、**白灯油 3：エンジンオイル 1** の割合の混合油に浸し、固く絞って取り付けます。

（2）ウレタンフォーム紙エレメント 2 重構造（図 -⑦-⑦,⑧）

- ウレタンフォームを紙エレメントから抜き取り石鹸液でよく水洗いし、乾燥させてから取り付けます。
- 紙エレメントは、内部から圧縮空気を吹き付けるか、軽くたたいて汚れを落とします。尚、汚れがひどい場合は石鹸液でよく水洗いし、乾燥させてから取り付けます。それでも汚れが落ちない場合は交換してください。

7. 燃料パイプの交換（図 -⑦-⑨）

⚠ 注 意

使用頻度に関わらず、燃料パイプは 2 年で交換してください。燃料漏れは引火する危険があります。
尚、点検時漏れ等のあるものは即交換してください。

8. 各所ボルト、ナット、ビスの点検

- ゆるんだボルト、ナット等は増締めします。
- 燃料やオイルの漏れがないか点検します。
- 破損部品は新品と交換してください。

6. 長期保存のしかた

1. 燃料を抜く（図 -⑧-①）

⚠ 危険 火気厳禁

1ヶ月以上、エンジンを使用しない場合は、燃料の変質による始動不良または運転不調にならないように、次の手順で燃料を抜き、湿気の少ないところに保管してください。

- ストレーナカップを左にまわして外し、ストレーナカップ内の燃料を抜いてください。
- 気化器内の燃料は下部のフロート室締付ボルトを外して燃料を抜いてください。
- 燃料タンクの燃料は、ストレーナカップを外し、受皿等を当ててから燃料コックを開にして抜いてください。

2. 注油する（図 -⑧-②）

- エンジンオイルは新しいオイルと交換しておきます。
- 点火プラグを外し、エンジンオイルを約 5 mL 注入し、リコイルスタータの始動ノブを静かに 2～3 回引き、点火プラグを締付けてください。

3. 清掃して格納する

- リコイルスタータの始動ノブをゆっくり引き、重くなった所(圧縮点)で止めておきます。
- 各部を油布で清掃し、カバーをかけて湿気、ホコリの少ないところに格納してください。

JP

7. オイルセンサー付エンジンをお持ちの方へ

（オイルセンサーはオプションです）

1. オイルセンサーによる停止

エンジンオイルが少量になりますとエンジンは自動的に停止します。エンジンオイルの量を点検してください。(図 -⑨-①)

2. 再　運　転

(1) エンジンオイルを規定量まで補給してください。
(2) 再始動および運転要領については「**4. 運転のコツと停止のしかた**」の項を参照してください。
- 結線が外れていますとセンサーは作動しませんので点検してください。(図-⑨-②-❷アース線を固定する)
- オイルの点検・補給の際に、**センサーをエンジンから絶対に外さない**でください。(図 -⑨-②-❶)
- オイルの使用方法は(図 -②-①)の「**オイル粘度の選定基準**」の表を参照してください。
- オイルセンサーはオイルの劣化を検知することはできません。日常・定期点検を取扱説明書にもとずいて行ってください。

8. トラブルシューティング

(図 -⑩ 参照)

修理を依頼される前に、まずご自身で次の点検を行ってください。点検された上でなお異常のある場合は、お買い求めの販売店または最寄りの整備工場にお申しつけください。

1. 点火は正常ですか？ (図 -⑩- ②)

(1) ストップスイッチは運転 "**I**"(ON)側になっていますか。
(2) 点火プラグを外し汚れている場合は清掃、または交換してみてください。
(3) 点火プラグから火花が出ますか？
- 点火プラグを取り外し、プラグキャップに取り付けて、シリンダヘッドの下側に確実にアースさせます。エンジンスイッチを ON にして始動グリップを引いて火花が飛ぶことを確認してください。
- 火花がでないときは、新しいプラグと交換してください。
- プラグを交換してもなお火花がでない場合は、点火系統の故障です。
- オイルセンサー付エンジンはエンジンオイルが少量の場合、始動後、すぐ停止します。その時はオイルを補充してください。

⚠ 警 告

この点検をする前に、点火プラグ穴周辺やその他のところにガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、または布きれなどで完全に拭きとってから行ってください。

⚠ 注 意

点火プラグはプラグ穴から離した場所で確実にアースし、プラグキャップ以外には触れないで点検を行ってください。感電のおそれがあります。

JP

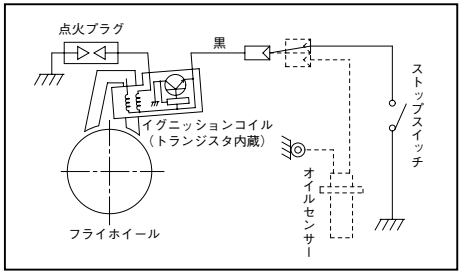
2. 圧縮は十分ですか？ (図 -⑩- ③)

- リコイルスタータの始動ノブをゆっくり引いて確認します。圧縮の少ない時は点火プラグの締付けが確実か確かめ、ゆるんでいたら増締めしてください。

3. 燃料が燃焼室に吸込まれていますか？ (図 -⑩- ④)

(1) 燃料コックは開になっていますか。
(2) チョークレバーを閉じ、5～6 回始動ノブを引いてから点火プラグを外してください。プラグの先端がぬれていれば燃料の吸込みは良好です。
(3) 燃料が吸込まれていない場合は、燃料がどこで止まっているか点検(気化器入口、燃料ストレーナ入口の個所をチェック)してください。
(4) 燃料が吸込まれていて始動しない場合は、新しい燃料と交換してみてください。

配 線 図 (STD)



＊オイルセンサーはオプションです

9. 仕　様

名　　称		EY15-3D	EY20-3D
形　　式		空冷4サイクル立形側弁式ガソリンエンジン	
総 排 気 量	ml (cc)	143	183
連続定格出力	kW/rpm (ps/rpm)	2.0/3600 (2.7/3600)※	2.6/3600 (3.5/3600)※
最 大 出 力	kW/rpm (ps/rpm)	2.6/4000 (3.5/4000)※	3.7/4000 (5.0/4000)※
回 転 方 向		左（出力軸側より見て）	
使用潤滑油		ロビン純正オイルまたは自動車用エンジンオイル	
潤滑油量	L	0.6	
使 用 燃 料		自動車用ガソリン	
燃料タンク容量	L	2.8	3.8
点火プラグ		NGK・B-6HS (STD)	
始 動 方 式		リコイルスタータ式	
乾 燥 質 量		13.2	15
寸法（全長×全幅×全高）mm		294×304×368	303×318×392

※（ ）カッコ内は参考値です。

特装品として次の物を用意してあります。（ご注文はロビンエンジン部品特約店にご相談ください）

1. 特殊エアクリーナ（デュアルエレメント形、サイクロン煙突形）
2. ラジオシールド形点火プラグ（BR-6HS）とプラグキャップ
3. 特殊点火プラグ (B-4HS)
4. クランクケース側面駆動軸側方向素引き部品

JP

ロビンエンジン
スバル産業機器

サービス網

ロビンエンジン搭載機・スバル産業機器をお買上げいただき誠にありがとうございます。
ロビンエンジン等の整備、部品に関しては、記載の指定整備工場をご利用ください。

◇ 快適な作業と能率向上の為**ロビン純正オイル**を是非ご使用ください。
　4サイクル用　SAE#30・10W-30と2サイクル用を用意しています。
◇ お求めは、本リスト記載のお店にお申しつけください。

【ご注意】
- **修理は持込みが基本で、有償となります。**
- **現地修理は出張料金を別途申し受けます。**
- **ロビンエンジン保証修理をご要求される方は搭載機械を購入された販売店に相談のうえ当社指定工場にお持込みください。（ジェネレータについては保証書の提示が必要となります。）**

〔注〕 表中記号
　　A：ロビンエンジン認定工場です。

〔注〕 住所、電話、FAX等予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

サービス網の最新リストは、下記のURLを参照ください。

http://www.subaru-robin.jp/

ISSUE EMD-EU2590

SUBARU

富士重工業株式会社
産業機器カンパニー
〒364-8511 埼玉県北本市朝日4-410
TEL:048-593-7857, FAX:048-593-7965
http://www.subaru-robin.jp

SUBARU

FUJI HEAVY INDUSTRIES LTD.
INDUSTRIAL PRODUCTS COMPANY
4-410 ASAHI, KITAMOTO-SHI, SAITAMA, 364-8511, JAPAN
TEL:+81-48-593-7798, FAX:+81-48-593-7946
http://www.subaru-robin.jp

PRINTED IN JAPAN
October 2008